

第13回小樽市中小企業振興会議 【議事録】

日時：令和5年10月17日(月) 14:00～

会場：小樽市役所 第1委員会室（別館3階）

出席者：玉井会長、近久副会長、廣瀬委員、松田（亘）委員、伊澤委員、久末委員、栗原委員、大田委員、鈴木委員、井上委員、齋藤委員、中田委員、宇山委員、阿部委員、佐々木委員

事務局：産業港湾部長、産業港湾部次長、産業港湾部産業振興課長、
産業港湾部産業振興課主査、産業港湾部産業振興課主事

次第1：開 会

事務局 本日は、御多用のところ御出席いただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第13回「小樽市中小企業振興会議」を開催いたします。本日の会議は、お手元の次第に沿って、概ね1時間程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。なお、本日、委員の過半数の御出席をいただき、この会議が成立していることを御報告いたします。

次第2 意見交換

会 長 中小企業振興というのは、日本にとっても非常に重要な課題だと思っておりますし、今後の発展、小樽の中小企業の振興を委員の皆様、また、事務局の皆様と一緒に盛り上げていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それではワーキンググループの意見や、今後のスケジュールなど、資料1から資料3までを、事務局のほうから説明お願いいたします。

事務局 <資料1「市の中小企業振興施策」について説明>
<資料2「ワーキンググループの意見」について説明>
<資料3「今後のスケジュール」について説明>

会 長 ただいまの説明について、御意見、御質問等はありませんか。委員お願いします。

委 員 いただいた資料によりますと、市の中小企業振興施策並びにこの条例にのっとり事業計画等が遂行されていることを、誠に喜ばしく存じます。同時にこの事業が、地域振興にいかなる成果があるのか、詳細なる検討も必要と考えます。また一方で、これら事業をいかに市内外の業者に周知させるか、会内でも、事業を知らない方、事業に懐疑的な方もおられます。そもそも、この振興条例、振興会議があることについて、知らない業者が圧倒的であります。私は、会員向けのニュースで、条例のあらましであるとか、議論の経過、方向性について逐一報告をし、意見を求めてきましたが、残念ながら、意見が上がることは、あまりありませんでした。それは、条例の効果であるとか、会議の意

味について、その経過や議論についても含めて、説明してもなかなか理解してもらえないものだと思うからであります。ホームページに載せたから、SNSにアップしたからそれでいいというのは、いささか乱暴に感じます。札幌以上に、業者の高齢化が著しい小樽市において、紙で見て分かる、口コミで広がることをないがしろにしては絶対にいけない、せっかくのこの事業案がわからないうちに終わってしまっていたなどということとは、全く意味がなくなってしまうということを非常に危惧しております。改めて力を入れていただきたいと思います。新型コロナも落ち着きまして、観光客の数も一定数戻っている今、小樽市において、地域の業者が、どんな中小企業振興施策を必要としているのかをつかむ必要があると、今一度考えます。皆さんも御存じかと思いますが、経済産業省が先頃発表した、2021年の経済センサスによりますと、小樽市の事業所数は減少しています。しかし、この数字は、2年前の数字でありますから、さらに減少している可能性があります。そんな中、花園で飲食業を営む方は、8月までは、一息つくのがままならないほど、忙しかったのに、9月に入って、徐々に客足が鈍り始めて、10月に入ると、びっくりするほど、暇になったといえます。今一度のお願いであります、市内の業者の実態調査を、ぜひお願いしたいと考えます。高齢化が著しい小樽市において、その実態を知ることは、中小企業と市民をつなぐことを目的とした、この条例、会議の運営において、また、地域内循環経済をつくる上でも有益になるのではないかと考えます。その際は、ぜひ市役所の担当職員の皆さんも足を運んでいただいて、ヒアリングをしていただいて、その実態を実感してほしいと思います。もちろん、必要であれば、私たちもお手伝いをさせていただきたく存じます。条例にのっとって、地域住民と地元業者が共存共栄していくにはどうしたらいいか。私たちが地域で何をすべきか、市役所の皆さんとどう手を携えてこの難局を乗り越えていくか、今こそ考えるときであると思います。この1年、いかに地元の人が、地元の業者にお金を落とす仕組みをつくるか、考えてきました。ぜひ、そういったところも、この会議で議論できればと思うところでございます。以上です。

会 長 ありがとうございます。令和6年度のテーマは、観光とすることにつきまして何か御意見ございますか。委員お願いします。

委 員 観光、特に滞在型観光というのは、小樽におきまして、昔からの課題だということを言われておりまして、そういったテーマを選定するということについては、よろしいかなというふうに思います。

会 長 ありがとうございます。ほかに御意見などありませんか。委員お願いします。

委 員 単純に観光をメインで考えることについては、賛同できますが、問題は観光に力を入れたとして、市内中小のお店へどのように還流するシステムを構築するかという点だと思います。市内を歩いてみると、お店が非常に減っています。そのうえで、どのように人が浸透する流れをつくるというのは、どれだけ難しいだろうかと。非常に寂れた状態になり、花銀が、半分ぐらいのお店が閉まっているっていう感じになっています。都通日も大体7割から8割店舗が埋まっていますが、2割前後は閉店している形となっています。数年前から、市内のお店はこのままだと減少していく一方だという感覚を持ってい

ましたが、実態として起き始めているという状態を考えると、気が重いところです。観光をテーマとするのはいいのですが、小樽独特のものっていうものを、もう1回、拾い出してみて、そこにどう力を入れるかっていうことを検討しないと、効果的な施策にならない可能性が高いと感じているのは、私だけかなっていう、不安が多少あります。皆様から、意見を聞きたいです。もう既に昔の賑わっていた小樽ではありませんので、どのような施策が効果的であるのかという点ですね。例えば、ある商店街の一部一角に、小樽の有名処に入ってください。そのために、市が予算を使うような形。そういう施策が必要になってきているような気がします。

会 長 ありがとうございます。ほかに御意見などありませんか。委員お願いします。

委 員 市内の商店街のお店は、出たり入ったり、なくなったりしています。結局、残っていく店は、どういうふうになってくるかというと、その業種のトップ、要するにワンアンドオンリーなお店、小樽市内のお客さんを引っ張ってこられるお店、観光客と、地元のお客さん、両刀使いを上手にやっていけるお店、完全に観光客をメインにやっていけるお店だと思います。お店によっては、2月あたりに入ると、売上の半分以上が外国人だったりする日もあります。完全に観光客に頼っている部分もありますし、別に観光のものは一切売ってなくても、売上の大部分が外国人になる可能性のある時代になってきているので、両方を取り込めるお店が、何とか生き延びている。淘汰されつつあるのは確かなので、それぞれのお店はある程度のレベルを何とか保っているのが現状です。また、都通里では、より観光路線に切り替えていこうという動きがあり、観光に特化したデザインに変更していく等、魅力化を図ることを検討しているところです。

会 長 ありがとうございます。ほかに御質問などありませんか。委員お願いします。

委 員 現在、コロナがあつて、戦争があつて、人手不足の問題、資源高騰、流通など、大きな環境変化がありました。その中でも、基本的な中小企業の振興策っていうのは、ベースになっている訳ですから、絶対に必要です。ただ、基本的な振興策をやりつつ、新しいことをやるとなると、お金の問題が出てきます。お金の問題で、やりたくても出来ないというのが、現実問題としてあろうかと思います。ただ、業界ごとに抱えている課題があるなかで、この環境変化に合わせて、商店街の魅力化を図っていくとか、具体的な動きが出てきているわけですね。例えば、国内の販路拡大において、百貨店はかつて、販路拡大の手段の主力でしたが、現在は百貨店自体が、苦しい状況になっているので、他の新しい販路拡大の手段を検討する必要があります。ただ、そういったことは、模索しながら地道にやるしかないです。少しずつ、対応していかなくてはいけない。ただ現状は、経営環境が劇的に変わっていることもあり、これを境にやっぱり何か新しい事業をやっていければと、個人的に思います。ただ、先ほども述べたように、お金の問題があるので、なかなか大変だと思います。なので、もう少し情報を全て集める必要もあるかと思っています。テーマとして、観光をメインにやりましょうというのは別に問題はないように思います。

会 長 ありがとうございます。御意見ありがとうございます。観光というのは、一つの産業として成立しており、環境が変化しているのであれば、小樽には様々な資源があると思いますので、そうしたものを再確認する必要もあろうかと思います。皆様のお力添えをよろしくお願い出来たらと思います。その他、御意見などありましたら、委員お願いします。

委 員 これだけの観光資源があり、それを活かすべきだと思いますが、観光だけでは、変わらないのではと思います。小樽らしさを考えますと、小樽はものづくりの街でもありますから、小樽のものづくりを生かした中の観光という形はどうでしょうか。例えば、銭函方面などの工場の見学をし、子供にもものづくり体験を提供するなど、物を買っての思い出だけでなく、他所で出来ないようなものを取り込んだ観光。独自性を生かした観光という形。観光というテーマには賛成ですが、もう少し、広義な意味でやっていただければいいなと思っております。

会 長 ありがとうございます。その他、御意見ありませんか。委員お願いします。

委 員 私自身が、「観光」と言うのを、ここ数年やめています。6次産業と言うようにしています。観光というと、お土産、ホテルなどにイメージが先行しがちですが、観光は、1次産業、2次産業、3次産業と、全てに繋がっています。仮に小樽に5,000人が宿泊したとして、5,000人が食事などで、2,000円を使ったら、1晩に1,000万円です。1,000万円のお金が小樽に落ちることになります。さらに、ホテルで朝食を食べるとなれば、その経済効果は、材料を納めている地元の各種事業者にも波及します。この高齢化が進んでいる小樽で、毎日市民が5,000人は外食しません。なので、やはり6次産業の推進という形でやっていければ、地元にお金が落ちることに繋がっていくと思います。ただ、6次産業の推進というのは、一般的にはわかりづらい部分もあるかと思うので、サブテーマという位置付けがふさわしいかとも考えます。

会 長 ありがとうございます。次年度のテーマについては観光といたします。それでは資料4について、事務局から説明をお願いします。

事務局 <資料4「経営力強化支援事業」について説明>

会 長 ありがとうございます。パッケージ作成支援事業について、今年度の参加希望事業者が少なかったことから、令和6年度については、令和4年度、令和5年度の新パッケージ商品のPRをメインとするということで、小樽産品の魅力発信につながっていくことを期待しております。女性復職支援事業ですが、現在の掲載企業数が10社ということで、昨年から企業数が増えてないということは、残念だと思います。これは、掲載企業数を増やしていかなければいけないと感じます。今、人材不足と言われる中で、やはり福利厚生面をきちんと整えて、働き手から選ばれる企業を増やしていくということが必要であると思いますので、やはり委員の皆様にもぜひ、御協力していただきたいと思います。それでは、御感想や御意見などをお聞きたいと思います。委員お願いします。

委 員 パッケージ作成支援事業の令和４年度の３商品について、例えば販売が伸びたとか、メリットがあったとか、参加事業者からの声があれば、お聞かせいただければと思います。

事務局 参加事業者からのお声としましては、パッケージリニューアル前の年間販売数量と同数量が、パッケージリニューアル後にひと月で売れた実績が出たというお声や、デザイナーと繋がりができたことによって、パッケージリニューアルをした商品のシリーズ化を進めているなどのお声をいただいております。

委 員 ありがとうございます。

会 長 その他、御意見、御感想ありますでしょうか。委員お願いします。

委 員 パッケージ作成支援事業について、良好な結果が出ているということでした。１回目の応募デザイン数と、２回目の応募デザイン数、単純な比較でいいのかわかりませんが、デザインの応募が増えているというのは、デザイナーさんにとって、事業の関心度が高まったゆえの数字なのかという、情報があればいただきたいと思います。

事務局 あくまで推測となりますが、自治体が実施している事業に、参加をすることがデザイナーにとって、ステータスになる可能性があるかと思います。また、前年度の実績がありますので、今年度、デザインの応募が増えたのではないかと考えられます。

委 員 ありがとうございます。

会 長 ありがとうございます。パッケージ作成支援事業について、事務局からの報告にもあったように、大幅な販売増加があったということは、デザインの重要性は勿論のことですが、加えて、商品の認知度が重要であるということの再認識にも繋がったと思います。女性復職支援事業につきましては、女性がなぜ働く意欲を持つのかとか、そうしたところも考えながら、進めていただきたいと思います。

次第３ その他

会 長 全体を通して、何か御意見やなどございますか。よろしかったでしょうか。活発に御議論いただきましてありがとうございました。特になければ本日はこのあたりでお開きにしたいと思います。事務局から何かございますか。

事務局 <事務連絡>

次第４ 閉会

会 長 それでは、以上をもちまして、第１３回小樽市中小企業振興会議を終了いたします。本日はありがとうございました。